

## 授業時間外学修について

### 1. 単位と授業時間外学修

1 単位の授業科目は、授業時間と授業時間外学修<sup>注1)</sup>を合わせて45時間の学修内容が標準と定められています(学則第36条)。

単位の設定は、その種類に応じ、次に掲げる基準によって定められた課程を履修した場合に行います。教室等における授業時間数は同じであっても、その種類によって単位の計算は異なります。

- (1) 講義および演習については、15～30時間の授業をもって1単位となります。
- (2) 外国語については、30時間の授業をもって1単位となります。
- (3) 実技については、30時間の授業をもって1単位となります。
- (4) 実験・実習および実技については、30～45時間の授業をもって1単位となります。

本学では1週に2時間単位(2時間=1コマ換算)の授業を行うので、講義の場合は毎週1回2時間(1コマ)で半年間2単位とすることを原則とします。ただし、科目によっては通年で2単位とするものもあります。

### 2. 能動的な授業時間外学修

大学生の1週間あたりの学修時間の日米比較(2007年)によると、日本で最も多いのが1-5時間57.1%(アメリカは15.3%)、アメリカで最も多いのが11時間以上58.4%(日本では14.8%)で、日本の大学生の学修時間の少なさは顕著でした<sup>注2)</sup>。

そこで、授業時間外学修に取り組むことが望まれますが、その際も学修が効果的であるためには、能動的に学修することが重要です。

また、経済同友会は、企業・社会の立場から、「学生の能動的な学びによる学修時間の拡充」を提唱し、第1に「双方向のグループ・ディスカッション、学外での社会活動体験(インターンシップ、留学、ボランティア活動)等の積極的な導入によって、学生のコミュニケーション能力の向上を図るとともに、視野を広げ、気づきを得るような機会を増やし、学生が自己の課題を見つけて進んで学ぶこと」を挙げ、それに加えて「学生の教養、専門を深めるための事前事後の学修強化」を挙げています<sup>注3)</sup>。

つまり、授業時間外学修として、ディスカッションや社会活動体験に積極的に取り組むことが最も望まれます。

### 3. 基礎学力向上と授業時間外学修

基礎学力を向上させることは、大学での専門的な学習を円滑にします。

また、就職活動では、多くの場合、一般常識試験に取り組むことになります。一般常識試験で問われる内容は、社会・国語・英語・数学・理科・文化・時事問題などです。つまり、基礎学力の向上に取り

組むことは、一般常識試験の対策にもつながっています。

基礎学力向上にはドリル式学習が最も効果的であり、本学では「TFU リエゾンドリル」を導入し、授業時間外学修として実施しています。

#### 4. 生きる力・学士力と授業時間外学修

現在、技術革新が絶え間なく起こり、変化の激しい「知識基盤社会」へ本格的に移行しつつあります。また、グローバル化が進み、国内においても、異文化共生社会になり、さらに異文化共創社会へと進むことが予想され、異文化理解と国際協力が不可欠になります。

このような社会で求められるのが、自ら課題を発見し解決する力、コミュニケーション能力、物事を多様な観点から考える力であり、生きる力といえます<sup>注4)</sup>。

生きる力は小中高校の学習を通じて育まれますが、大学においても学士力として培うことが求められています<sup>注5)</sup>。

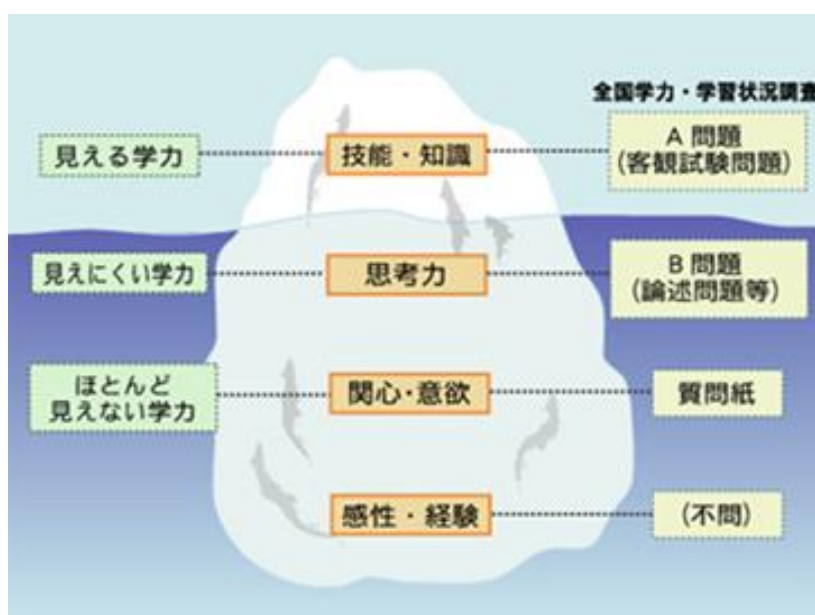
学士力は授業内でも学びますが、授業時間外での教員とのコミュニケーションや学生同士のコミュニケーションで培われます。その双方向を高めるために、ユニバーサル・パスポートや学修支援システムの「TFU Edu Track」、オフィスアワーなどがありますので、それらを授業時間外学修として活用することが望まれます。

#### 5. 確かな学力と授業時間外学修

大学では、教養や専門の知識・技能を学びますが、そのためには梶田による氷山モデル<sup>注6)</sup>に示される「確かな学力」<sup>注7)</sup>を培うことが不可欠です。

つまり、感性（感じとる力）を育み、経験を広げる→さまざまなことに接し、関心や意欲を持つ→問題意識を持って考える→知識や技能が確かなものとして身に付くということになります。

本学では、感性を育む学習環境に配慮し、感性の教育に力を入れています。また、ボランティア活動や留学、インターンシップなど、経験を広げることにも力を入れています。これらの機会を授業時間外学修として活用し、確かな学力を培うことが望まれます。



【注】

- 1) 授業時間内は学習、授業時間外または授業時間内と授業時間外を合わせて学修と使い分けられています。
- 2) 文部科学省 大学分科会（第 108 回）・大学教育部会（第 20 回）合同会議（2012 年 7 月 24 日） 配付資料 資料 3-2 関連データ(2/2) 「学生の学修時間の現状」  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/siryo/attach/1323908.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/siryo/attach/1323908.htm)  
なお、本学の学生の学修時間については、「1 年間の学修活動に関するアンケート」の結果をご覧ください（本学ホームページ>学生生活>学生アンケート参照）。  
[http://www.tfu.ac.jp/fd/action/questionnaire\\_student.html](http://www.tfu.ac.jp/fd/action/questionnaire_student.html)
- 3) 経済同友会 『これからの企業・社会が求める人材像と大学への期待 ～個人の資質能力を高め、組織を活かした競争力の向上～』（2015 年 4 月 2 日）  
<http://www.doyukai.or.jp/policyproposals/articles/2015/150402a.html>
- 4) 文部科学省 「現行学修指導要領・生きる力」（保護者・一般向けパンフレット）  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/pamphlet/](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/pamphlet/)
- 5) 「TFU リエゾンゼミ・他『学びとの出会い』（第 1 章 3. リエゾンゼミについて知ろう）参照
- 6) 文部科学省「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会（第 2 回）」2013.1.21 の資料「〈新しい学力〉と学習評価の枠組み」（松下佳代）  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/095/shiryo/\\_icsFiles/afieldfile/2013/01/29/1330122\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/095/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2013/01/29/1330122_01.pdf)  
なお、本学では、氷山の下部分を「根っこの教育」と称して、氷山モデル以前から力を入れて取り組んできました。
- 7) 「確かな学力」は、「豊かな人間性」「健康・体力」とともに、生きる力を構成する要素にも位置づけられています。